

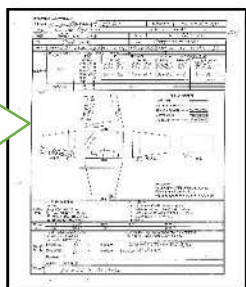
丸亀城管理室だより No.19



「転用石」を製作しています

回収した石の数は、最終的に11,746石となりました。回収した石は、できるだけ元の位置へ戻す予定ですが、崩落の衝撃で破損してしまい、元の位置で使用できない石も多数含まれています。使用できない石も、再加工をすることで「転用石」として別の場所で再使用できるように、製作に取り組んでいます。

1つ1つの石に「石材調査表」というカルテを作り、石材の状態や再使用できるかどうかを記録しています。



加工した結果、想定より小さくなったり、市職員が立会しチェックした結果、保留となったりする場合もあり、一筋縄ではいきません。



石垣復旧事業報告会を開催しました

8月27日に、「石垣復旧事業報告会」を行いました。昨年は参加者を丸亀市民に限定しましたが、今年は制限を設けなかったため、市外や県外からお越しになった方もいました。

報告会では、これまでの調査成果や崩落メカニズム、復旧の基本方針などについて説明を行いました。その後現場へ移動して、主に三の丸石垣の根石と帯曲輪石垣の基底部の構造について解説しました。内容に難しい点多かったかと思いますが、アンケートを行ったところ、9割以上の参加者の方から「よくわかった」「まあまあわかった」とのお声をいただきました。



丸亀キッズウィークでの現場イベント

丸亀市では、毎年10月の第3月曜日を「丸亀こどもデー」として、市立の小・中学校、幼稚園、こども園（一部）が学校・園休業日となります。丸亀こどもデーを含む土・日・月曜日の3日間は、「丸亀市キッズウィーク」と名づけられ、様々な場所で親子向けイベントが開催されています。

石垣復旧現場では、丸亀キッズウィーク関連事業として、10月14日に現場体験イベントを開催し、石に楔を打ち込んでハンマーで割る「石割体験」や、クレーンに手振り指示をする「クレーン合図体験」、空調服の着用体験などを行いました。中でも、石工さんが本物の丸亀城の石材（再使用できないもの）を実際に割ってくれる「石割実演」は、石工さんの技術が目の前で見られる貴重な機会とあって、お子様のみならず大人の方も興味深そうに見学されていました。



令和5年度 第1回丸亀城石垣復旧専門部会を開催

11月20日に、「令和5年度 第1回丸亀城石垣復旧専門部会」を開催し、今後の復旧方針を以下のとおり決定しました。

■復旧方針（全体）

①文化財の修復ならびに災害復旧事業である為、「崩落前の姿」に復旧することを基本とする。

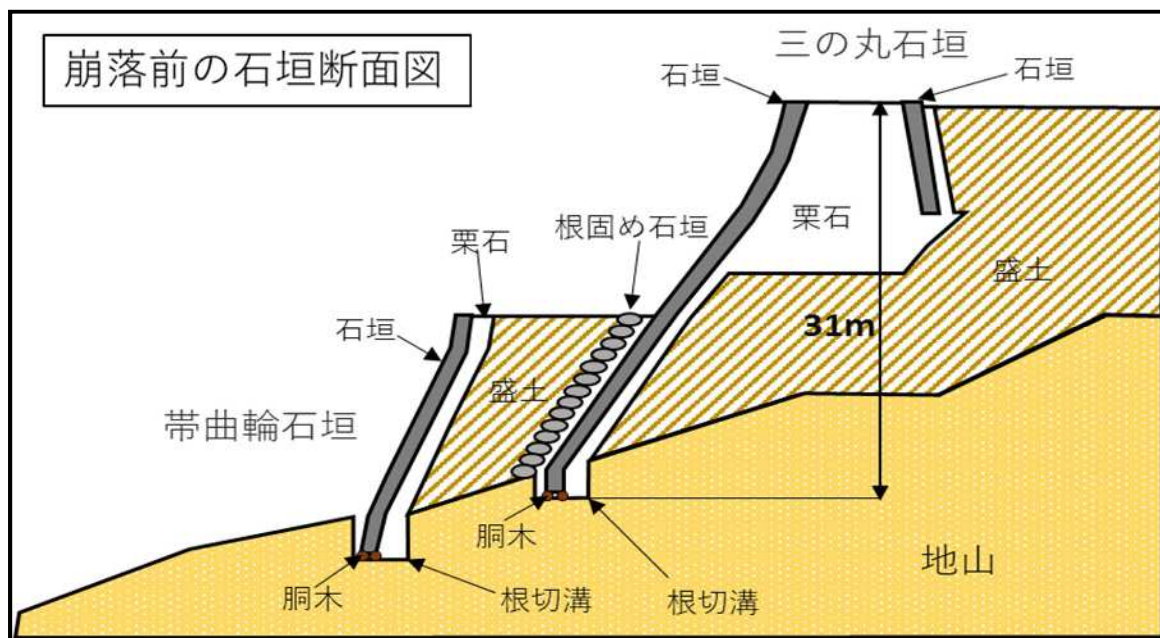
勾配や石積みなどの見える部分だけではなく、栗石、盛土等の見えない部分も元の形で復旧します。

②復旧方法については伝統工法による復旧を基本とし、遺構の保存、及び長期的な石垣の安定性確保のため必要な場合は、現代工法を採用する。

江戸時代に積まれている石垣ですので、現在の土木基準に照らし合わせ、安定検討を行います。必要に応じて現代工法の採用を検討しますが、その際には、必要最小限のものにすることとします。

③復旧する上で工法上安全が確保できない構造等の復旧は行わない。

地中部から不安定な形で発見された埋没石垣などは、復旧作業には危険が伴います。このようなものは、丸亀城石垣の重要な歴史的証拠であっても協議を行い、復旧は行いません。ただし、報告書への記載や展示などにより、皆様に広く周知することとします。



■復旧方針（個別）

地中部（根固め石垣、根切り溝、根石、胴木など）は、崩落前の形状に極力復旧します。根石と根切り溝は保存を最優先としますが、保存した根石の上からの積み直しが難しい場合は、現代工法も視野に復旧を行います。

勾配は、石垣全面の測量成果を根拠に、孕み、ゆがみ等を是正したものとします。

石積みは、元々の石材を使用し、崩落前の測量した位置を元の位置として、その場所に復旧します。損傷し元の位置に復旧できないものや元の位置が不明なものは、再加工し転用石として他の位置で使用します。転用石でも復旧ができない箇所は、新しい石材を使用します。

栗石、盛土・地山は、石垣の背面構造が複雑であるため、強度や施工方法などを総合的に検討し復旧します。例えば栗石には、ずれ防止のための網目状のシートを入れ補強します。また、盛土や地山が強度不足の場合は、補強材の挿入や固化材（セメント等）の添加等の現代工法についても検討します。

排水体系、構造は、崩落原因が雨水によるものが大きいことから、石垣最下部に排水管を通すなど、水が集まりやすい箇所に排水構造を整備します。